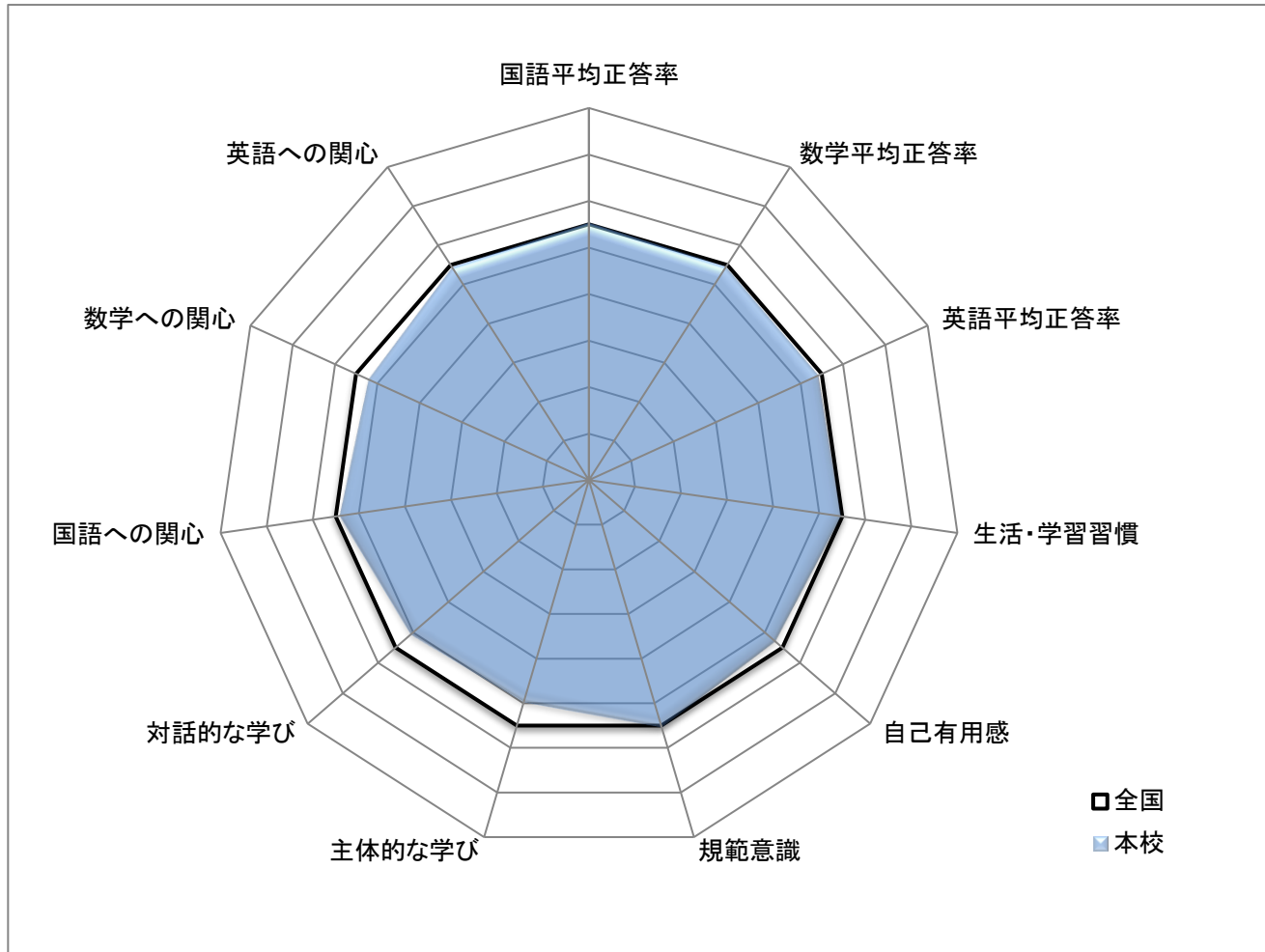


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】国語の学習が好きで大切だと考える生徒の割合が平均よりも上回っている。しかし、学んだことを活用する意欲が低く、授業時に考えを話す、書くことへの達成感も弱い。

【数学】数学が好きだという生徒は平均を下回っている。数学の知識や活用の正答率はほぼ平均と同じである。

【英語】英語が必要だと思っている生徒が平均を上回っているが、好きだ・わかると答えた生徒は平均を下回っている。「話すこと、聞くこと」は好きだが、「読むこと、書くこと」は苦手である。

《授業改善のポイント》

【国語】目的をもって自分の考えを伝えることを意識し、これまでの毎時間の1分間スピーチに加え、レスポンスを意識した「対話的」授業を構築していく。

【数学】関心を高めるために、身近な問題について数学を使って解法を探求するような題材を設定する。

【英語】教科書だけでなく、少し教科書から離れた内容の読み物を取り入れると、生徒を刺激し、読みたいという欲求がでるのではと思われる。書くことは時間をかけて繰り返し時間をかけてやっていく。

《チャートの特徴》

国語・数学・英語ともにほぼ全国平均といえる。生徒アンケートでは、生活・学習習慣についてはほぼ全国平均と同様になっている。いじめに関する意識は平均を上回っている。自分に良いところがあると考えている生徒は多いが、認められていると感じている割合は平均を下回っている。教科の学習については大切だと感じている生徒の割合は高いが、学級活動や総合的な学習の時間において、自分が努力したり、自分で考えていると思っている生徒の割合が、平均を大きく下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

落ち着いた授業に臨むことについては各家庭に働きかけてきた。ただ、生徒の実態として、自分の考えをしっかりと伝えることができていることを考えると、家庭においても自分の考えをきちんと話す機会を増やすよう働きかけていく。